



號二十第卷通 號 月 十 號九第卷二第

號念記年周一第刊創

鑑 年 者 記 本 日

新理想主義に城築いて、新聞廓清の戦を戦ふこと一ケ年、吾儕は更に此の戦を將來に烈しくしその烈しさを幾倍加するの要あるを痛感す。

新聞はいま得意の絶巔に立つ、官僚、軍閥を屏息せしめ、政黨、政府を牽制し、資本を擁して輿論に主たり、禍此間に生ずるを人々は觀る。

新聞廓清は既にして天下の聲となる、吾儕微力を此處に使ふべしと爲す、横に同志の力を協せ始終一貫せば則ち多少の結果あるべきを信ず。

新文化建立の大事は新聞の努力に俟ち、その成敗は新聞廓清の程度に因つて定まる、新聞の名譽の爲に、吾儕飽くなく廓清戦を戦はむ而已。